

202510.23 (木)
第 16 回例会
(通算3825回)

2025-2026 年度 釧路ロータリークラブ会報

会長スローガン「笑顔と誇りを胸に、挑戦するロータリー」

会 長 荒井 剛
副 会 長 池田 一己
幹 事 横田 英喜
編集責任者 クラブ会報・雑誌・公共イメージ委員会

例会日 毎週木曜日 12:30 ~ 13:30 夜間例会 18:00
例会場 釧路センチュリーキャッスルホテル
事務局 釧路市錦町 5-3 三ッ輪ビル 2F
☎ 0154-24-0860 📠 0154-24-0411

2025-2026 年度
国際ロータリーテーマ

『よいことのために 手を取りあおう』
UNITE FOR GOOD

2025-2026 年度
RI 会長 フランチェスコ・アレツツォ
第 2500 地区ガバナー
佐渡 正幸 (釧路北 RC)

本日のプログラム 地区補助金事業報告 (社会奉仕委員会)

次週例会 地区大会に参加して (理事会)

■ロータリーソング：それでこそロータリー ■ソングリーダー：本間 剛君

■会員数 107 名

■ビジター

■ゲスト 釧路猛禽類医学研究所 副代表 渡邊 有希子様

会長の時間 荒井 剛会長



皆さん、こんにちは。明日からいよいよ地区大会が始まります。明日の夜、釧路ナイトがありますので、ご出席の方、どうぞ

よろしくお願いいたします。

タイから今のガバナーと昨年度のガバナーともう一方の3名が釧路に来られます。明日の晚餐会のあとに、釧路ナイトのあとの二次会にガバナーなど3名を連れて行くことになっております。釧路ナイトにご参加の方、タイから来られた3名の方と交流していただければと思います。私が責任をもって連れて行きますのでよろしくお願いいたします。

その地区大会について一言、お話ししたいと思います。

明日の10月24日は、ポリオデーと呼ばれています。ポリオデーなので幣舞橋周辺のMOOの横・EGGにいま看板を掛けていますが、明日の午後4時過ぎに夕日に合わせてポリオ撲滅運動のシャツを着て、皆さんと歩いてライトアップをするイベントがあります。ご都合のつく方はぜひそこに参加していただければと思います。

このポリオ撲滅運動ですけれど、いろいろなところで言われていますが、大事な話なので改めて説明したいと思います。

ロータリーが長年取り組んでいるイベントないし活

動の中で一番、世界にとっていいことだと、いいことをしているのだな、というのがポリオ撲滅運動だと言われております。

これは、1985年に開始しましたが、当時は年間35万人くらいの子どもたちが「小児マヒ」、いわゆるポリオに罹っていたのですが、その年をきっかけに、ワクチン接種がフィリピンから始まりました。ロータリーが先駆けていろいろな活動を行いました。

どこと組んだのかですが、世界保健機構のWHO、ユニセフ、マイクロソフトのビル・ゲイツ財団と手を組んで、今でも毎年、多額の資金を投入した結果、99.9パーセントまで撲滅に至っております。

よく言われているのが、99.9パーセントまで減ったものの、パキスタンとアフガニスタンではまだ何例か出ていることから100パーセントに至っていません。ここで、99.9パーセントまで行ったのだから、そんなにお金をつぎ込まなくてもいいのではないかと、とかロータリーとして別のことをやったほうがいいのか、とか自分たちが出すお金をポリオにかけなくてもいいのではないかと、日本ではポリオが撲滅できているから関係ないのではないかと、という声がチラチラ出ていますけど、ここがすごく大事だと言われています。

99.9パーセントだとしても、ほおっておいて、ここで止めると10年以内に年間20万人くらいの子小児マヒを起こす可能性のあるポリオに感染する子どもたちが一気に増えて、これが止まらなくなるので、99.9パーセントの先の100パーセントに行くために、

今こそお金をつぎ込まなくてはいけないと言われていたそうです。

今年の国際大会で、ビル・ゲイツ財団とロータリーが約束したことがあります。この3年間で4億5000万ドルをつぎ込むと言われております。ロータリーは年間5000万ドル、ビル・ゲイツ財団はその倍の1億ドル、これを3年続けるので4億5000万ドルつぎ込むと言われております。

皆さんから「ポリオ・プラス」のために出資いただいているお金は、年会費の中に入れて払っていただいております。これ、いくらかというと上期1000円、下期1000円で合計2000円をいただいております。皆さんからいただいた2000円が日本全国から、世界のロータリアンから集まったものがポリオ撲滅に渡っていると理解していただきたいと思います。

各会員からは2000円ですがポリオ撲滅運動につながって、自分たちがロータリアンとして活動している中で、もし、100パーセントに達したら自分たちが出したお金少しがそれにつながったと他の人に説明できるのではないかと思います。ぜひ、ご協力のほど、最後までよろしくお願いします。

では、明日からの地区大会、よろしくお願いいたします。以上です。

幹事報告 田坂 渉副幹事

皆さん、こんにちは。会長からお話がありましたが、地区大会が明日から開催されます。明日はポリオデーということで幣舞橋周辺の行進があります。後ほど、ポリオデーにちなんだ募金箱を回しますので協力をお願いいたします。

明日は釧路ナイトとして18時から『はたご家』で予定しておりますのでよろしくお願いします。

土曜日は受付登録が9時からとなっております。9時15分に国際交流センターの正面玄関で記念写真の撮影がありますのでご参加の方は集合をよろしくお願いします。

以上です。

90周年実行委員会についての報告

工藤 彦夫会長エレクト



皆さん、こんにちは。90周年についてご報告いたします。

先般の理事会で承認を受けたことですが、実行委員会体制にすることと、実行委員長とそのメンバーについても承認を受けました。実行委員長には大変ご苦勞をかけると思いますけれどもよろしくお願いいたします。

実行委員長を脇弘幸君にお願いしております。脇君です。よろしくお願いいたします。

脇君、一言、お願いします。

創立90周年記念実行委員会 脇 弘幸実行委員長



皆さん、こんにちは。ただいま、工藤会長エレクトからお話がありましたとおり、来年予定している創立90周年記念実行委員会の実行委員長を務めさせていただきます。

この長い歴史、90年という時をつないできたクラブの周年の実行委員長を務めさせていただくというのは、私自身にとって大変光栄なことと思っております。

ただ、50周年の実行委員長が清水パストガバナー、60周年が泉パスト会長、70周年が吉田潤司パストガバナー、そして前回の80周年は尾越パスト会長が務められたことで、この並びの中で、本当に私でいいのかととても不安になるところであります。そこは皆さん一人一人の力をお借りしてしっかりと準備をして、釧路ロータリークラブにふさわしい90周年を準備し、実行していきたいと思っていますので、皆さん、どうぞよろしくお願いいたします。

もう少し時間をいただいて、いま、実行委員会の組織が少しずつ出来上がってきています。実行委員会の役について皆さんにご報告をさせていただきます。副実行委員長に杉村莊平君、実行委員会幹事に濱口憲太君、そして今回は4つの部会の部会長を選任しております。その4人部会長をフォローしまとめていただく統括部会長を選任させていただきました。二人おりますが、一人目の統括部会長は浅川正紳君、二人目の統括部会長が中島徳政君。そして、部会長が4名おります。一人目が池田一己君、同じく部会長・松井聖治君、同じく部会長・村上祐二君、4人目の部会長・日理一哉君。以上のメンバーが中心になって90周年の実行委員会がしっかりリードしていきたいと考えております。

もう少し時間をいただいて、いま、実行委員会の組織が少しずつ出来上がってきています。実行委員会の役について皆さんにご報告をさせていただきます。

副実行委員長に杉村莊平君、実行委員会幹事に濱口憲太君、そして今回は4つの部会の部会長を選任しております。その4人部会長をフォローしまとめていただく統括部会長を選任させていただきました。二人おりますが、一人目の統括部会長は浅川正紳君、二人目の統括部会長が中島徳政君。そして、部会長が4名おります。一人目が池田一己君、同じく部会長・松井聖治君、同じく部会長・村上祐二君、4人目の部会長・日理一哉君。以上のメンバーが中心になって90周年の実行委員会がしっかりリードしていきたいと考えております。

どうか皆様も会員が一丸となって、釧路ロータリークラブにふさわしい90周年を実行したいと考えております。そして、みんなと一緒に祝いをしたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

■ 本日のプログラム ■
地区補助金事業報告

社会奉仕委員会 得地 哉委員長

皆さん、こんにちは。社会奉仕委員会委員長の得地です。よろしくお願いいたします。

池田副会長がニコニコをしている

のに私がしていない事実にいま気づきました。

体験ツアーについて簡単に報告したいと思います。地区補助金事業を活用した事業です。ご存じのとおり釧路地域の小学校3年生から6年生を対象として、講師に釧路湿原の魅力を伝えていただく事業として今回で3回目になります。私は今回、初めての参加でしたが、なで今までの2回に参加していなかったのか、本当に悔しいくらい楽しい事業でした。

内容は、10月4～5日で、参加人数は両日ともに小学生20名程度と大人が13名程度で、各日30名強で行われました。

私は4日に参加しました。冒頭のセレモニーで釧路湿原展望台前において平澤ガバナー補佐、荒井会長からご挨拶をいただき、その後、展望台の見学を行いました。展望台の施設は古くて、少し陳腐化、老朽化している感じはありますが、状態を知っていただくのには十分な資料かと思います。

そのあとは温根内ビジターセンターに移動して、全員が胴長を着用して湿原の中に入って行きました。ガイドの方を先頭にして川を渡って、湿原の中に入っていくのですが、川を越えたあたりはぬかるみが多くて、木下さんと私は巨体なことで何度もズボズボはまりながら進んで行きました。奥に入っていくと湿原の上は水の上ですからフワフワな状態です。ウォーターベットのの上を歩いている感じでした。

だんだん木が少なくなって、低い木が中心になると、木の樹齢の測り方を教えていただく機会がありました。すると、そんなに太い木でなくても樹齢が55年とかあるのを知って、湿原って大変な所だな、と感じました。

水の上の草の上で大人がジャンプして、その衝撃を子どもが体感することも行いました。聞くとところによると1.5メートル以上も堆積しているという状態のようです。

ずーっと奥に入っていくと『ヤチマナコ』、底なし沼みたいな所、そこに入る体験もさせていただきました。私はもちろん支えてもらえないので、入れてもらえませんでした。子どもたちは両脇を大人たちに抱えられてヤチマナコにズボーンと入る体験もしました。



ヤチマナコの見極め方も教えていただきました。湿原の中に入ることはなかなかないと思いますが、水草が浮いている。ほかの所は水があって水草が浮いていない。明らかに水草らしいものがチョコチョコと浮いている所はヤチマナコだから注意してください、ということでしたから皆さんがもし湿原に入る機会がありましたら気を付けていただきたいと思います。

出発地点に戻って来て記念撮影を行って湿原展望台でお昼ごはんを食べました。

そのあと、釧路湿原野生生物保護センターへ移動して、本日の講師でもある渡邊先生からシマフクロウ、オオワシ、オジロワシの生態、おかれている現状などを中心にレクチャーをいただきました。そのあとは、2班に分かれて野生生物保護センターの展示施設の見学を行いました。猛禽類医学研究所バックヤードツアーでワシなどがたくさんいる所を見せていただきました。

すべて終了したあと鳥取神社へ移動して、子どもたちの振り返り学習がありました。その中ではソーラーパネルをテーマにして講師との掛け合いで進めて、最後に釧路湿原を守るための大人へのメッセージを画用紙に書いて発表していただきました。

子どもたちから様々なメッセージがありました。そこで未来を担う子どもたちのために、この自然を守っていくことの大切さを改めて痛感した次第です。

最後にアンケートに記入して終了となりました。

今回で3回目です。補助金事業としては一区切りとなりますが、次回以降は今までの湿原西側から東側に舞台を移して、冬の時期に行うか、カヌーを行うかなどいろいろ企画されているようなので、私も楽しみにしています。皆さんも来年度以降にも参加していただければと思います。報告は以上です。

続きまして、講師のご紹介をさせていただきます。

先般、釧路市にメガソーラー建設に対して猛禽類医学研究所の齊藤代表が独自の報告書を提出されましたが、その際にも同席されておりました株式会社猛禽類医学研究所副代表。獣医師の渡邊有希子先生です。

渡邊先生は宮城県生まれで、帯広畜産大学畜産学部獣医学科家畜解剖学講座を卒業されました。在学中にゼニガタアザラシの研究に携わったことをきっかけにして、野生動物の保全活動を始めたそうです。現在は、猛禽類医学研究所副代表・獣医師として釧路湿原野生生物保護センターを拠点にシマフクロウやオジロワシ、オオワシの保護増殖事業、傷病鳥類の救護、鳥類の鉛中毒や油汚染、鳥インフルエンザ感染症などの対応に従事されております。

現在、環境省希少野生動植物種保存推進委員、北海道獣医師会野生動物部会委員、釧路市社会文化財保護審議会委員などを務められております。

それでは、渡邊先生、よろしくお願いいたします。

猛禽類医学研究所 副代表、獣医師・渡辺有希子様

ご紹介いただき
ましてありがとう
ございます。本日
このような貴重な
ご機会をいただき
まして御礼申し上
げます。また、先



般行われました行事のところでも子どもたちはもちろんなのですが、参加された大人の方々も汗だくになりながらも楽しかったという感想をおっしゃっていたのがすごく印象的で、私たち環境教育にも力を入れているのですが、子どもにも体験してもらおうというのも大事って思いつつも、大人も体験していただくというのはすごく大事なと改めて感じた次第です。

本日はいただいた時間の中で、釧路湿原野生生物保護センターで行われている活動をご紹介させていただこうと思って、いくつかスライドをご用意しています。私たち猛禽類研究所は株式会社でして、民間の会社になるのですが、こちらの野生生物保護センターは環境省の施設ですが、環境省から業務委託を受ける形でこちらのセンターの運営に関与しております。実際には、収容として傷病収容っていうものは、傷ついたワシ、フクロウなどが運び込まれて来ます。私たちも全ての動物が貴重なのは分かっているものの、その中でも生態系の頂点に位置する猛禽類、アンブレラ種に着目して、彼ら猛禽類を守ることがその傘の下にいる動物たちも守ることにつながるという概念から希少種の救護に携わっているのです。実は救護というのは、ケガをしたものだけではなくて、死亡個体も全て集めてもらっています。今週の日曜日に千歳のほうで一般の方から「飛べないオジロワシの幼鳥がいる」と通報いただいて、環境省と協力をして搬送してきました。ひとつは愛護的観点、救護というのは発見した時に「何とかしたい」と思う、いま日本人が持っている当たり前の気持ちというのを大事にしていきたいなと思います。これも平和だからという観点もあるのですが、他の動物に対して、環境に対して、注目していく、慈しんでいく考え方を大事にしていきたいなと感じています。

なので、社会科学、人文科学にも通じるところなのですが、命を救おうと思う気持ちに込めていきたい。また、それを環境教育につなげていったり、それこそ救護というのは市民の皆さんが参加するきっかけになります。そこから行政につながりきっかけにもなると思っております。一方で、救護、命助ける云々だけではなくて、一羽一羽の命が次世代を生み出す貴重なきっかけの命のつながりですし、鳥類臨床というのはなかなかないのです。獣医の中でも小鳥とかの臨床や

られている先生がものすごく少なくて、なかなかペイしないっていう事情もあるのですが、治療リハビリ技術の向上という意味では、私たちはティーチング・ホスピタルとして、日本国内には他にはない医療機器を揃えつつ、獣医学生さんや先生方にも来ていただいて学んでいただく施設にしたいと思っています。

収容原因、一羽を助けることに重点を置くだけではなくて、何が起きているのかの収容原因を解明することで、鳥インフルエンザのように人にも来うる感染症があります。実は今朝、根室で回収されたカラスの死体が簡易検査で陽性が出ましたので、おそらく夕方に発表なと思うのですが、昨年も鳥インフルエンザたくさん発生しました。哺乳類に感染する状況になっていて、アザラシやラッコを私たちが初発見したのですが、これが牛にくるかもしれない、皆さんの飼っている猫にくるかもしれないというところで正しく怖がりつつ、対応していくのがすごく大事なことになります。

きっかけとして、大量死につながるような人にも来うような病気は、傷ついた鳥たち、亡くなった鳥たちが教えてくれる窓口だと考えてこの救護活動を行っています。

この観点からするとSDGsでは、小学生もみんな頑張っ取り組もうという形で一丸となっています。これはウエディングケーキと呼ばれるSDGsの構造図ですが、根幹をなす環境はすごく大事で、社会経済の発展には土台となる環境がいかにしっかりしているかが大事ですというのが、どうしても忘れがちなのですが、ここを私たちも皆さんに伝えるきっかけにしたいと思って、救護のお話などをさせていただいております。

『ベック』と私たち名付けているオジロワシの個体です。ひとつの事例としてご紹介しようと思ってスライド用意しています。網走で発見された個体です。見ていただくと、ちょっとクチバシ変だな。こちらのクチバシないというのがお分かりかと思うのですが、クチバシがないので自分で食べることができません。人工のクチバシを付けることで、ちょっとカクカクしてしまった動画ですが、自分で食べられるようになったのです。良かったねというストーリーではあるのですが、ここに至るまではたくさんの方々の協力を得ています。

収容当初です。交通事故なので頭を打って、ずりむけ状態で運び込まれて来て、それから半年近くかけて皮膚移植などしながら、私たちにも初めての試みなのですが、良くなってきました。でも今度は、「クチバシをどうやって作ればいいのだろう」と。獣医師というのはその分野は得意ではないのです。髪の毛や爪と同じ素材なのですが、作ってみても、どうも重くて付けられませんでした。接着面がどうしても擦

れて血が出てしまったりして、難儀しました。
その際に協力してもらったのが、歯医者さん、歯科技工士さんなのです。「こういう困っている鳥がいる」ということを知っていただいた時に、「自分にも何かできるかも」という形でご協力いただきました。来ていただいて麻酔をかけながら、ベックの頭の型取りをして、フィットする型を作って義歯・人工のクチバシを作っていただきました。当然、フィッティング、これを合わせなきゃいけないので技工士さんに来ていただいて、「ちょっとここ出ているから削りましょう」みたいに。皆さんが歯医者さんで経験されるのと同じです。

こんなことは私たちにはできないし、知らないのです。でも、私たちが一人でやるべきものではないと思っていて、皆さんのいろんな知見、技術などをお借りしながら一緒にやっていく。ベックがいることで一緒にやっていくきっかけになったとすごく感じました。出来上がったものを付けてもらおうと、オジロワシっぽい顔つきに戻ってきました。自分でご飯も食べられるというのが、この画像です。上のクチバシがないと、つまむことができません。餌を喉の奥に送り込むことができないことから、つまみ上げて食べる仕草だけでも、すごくクチバシって大事なのだなと教えてもらった事例です。

こういった事例があると、NHKの『ダーウィンが来た』でも取り上げてもらって、いまオンデマンドでも見られるようなので、もしよろしければ見ていただければと思うのです。ダーウィンの放送の中でも、年間のアワードで7位になって再放送されているのですが、広く日本中で皆さんに知っていただくきっかけになった鳥がベックでした。

このようなさまざまな鳥たちがセンターに運び込まれて来ますが、基本的には希少種といわれる鳥、これはオオワシ。世界中のバードウォッチャーが憧れる鳥で、オホーツクにしかいない、冬場は日本でしか見ることができない鳥なのです。すごく綺麗な鳥です。ちょっと小さいけれどもオジロワシ、これはこれでシャープな綺麗な鳥なのです。冬場にこれだけのオオワシ、オジロワシが集まる場所というのは世界的にもすごく珍しい所なのです。なので、海外のバードウォッチャーもこれを求めて見に来る。観光資源としてのポテンシャルもとても高いのです。

また、シマフクロウも北海道にしか生息しない世界最大級のフクロウなのです。これがヒナですが、シマフクロウのヒナも『トトロ』のモチーフになったのではないかと個人的に思っていますが、数が少ない絶滅危惧種の鳥なのです。

それがケガをして運び込まれて、運よく包丁で切るとするのは全体の30%ぐらいです。決して多くはないです。世界的な基準でからすると高い水準は保ててい

るとは自負しているのですが、いかに早く発見して、早く運んで来る、治療につなげる、もしくは予防をする、というところが大事になってくると思っています。

こちらのグラフが収容したオオワシ、オジロワシ、シマフクロウの収容原因を分析しています。年によって若干トレンドが出てきます。近年は、エゾシカと列車事故が増えていることも含めて背景として、エゾシカが先にひかれて、それを餌として求めて来た鳥たちが自分たちもひかれてしまうという事故が顕在化しています。風車の事故も増えてきています。風車の建設が増えれば増えるほど事故も2003年から極端に増えたなど感じています。

分析をしていくと、死亡個体のほうが多いのですが、彼らの声は、人の声ではないけれども、彼らのメッセージを紐解いて、それを解決していきたいというのが私たちの大事な活動のひとつでもあります。

救護はひとつのツールであって、それに対して究明する、そして技術開発を重ねていく、それによって彼らの受けている問題、分析していくとほとんどが人の経済活動、車に関連する、列車に関連する、もしくはエネルギーに関連する、もしくは商業ベースに関連する事故に見舞われているというのが分かってきて、それをいかに改善するかというのは、やっぱり人が起こしている以上は人が何とかすべきだと感じています。

もうひとつ、活躍してくれる野生に帰ることはできない鳥たちです。片方の翼がない状態でワシたちがセンターにおります。日曜日に運び込まれたオジロワシも幼鳥なのですが、その間ずっと飛べない時が一月以上あったのだと思います。もう骨がボロボロで腐りかけていたのです。けど、親は飛べない幼鳥に対して、ずっとご飯を運び続けてくれていたのです。生き延びることができていたけれど、残念ながら羽を整復することはできず、昨日、断翼、翼を切る手術をしました。そのまま残していると、壊死すると敗血症になってしまうので、翼を切る選択をしました。野生にはもう帰れない。こういった形で他の仲間たちとセンターで暮らしてもらおうと思うのですが、今度はどう彼らに生きてもらうかです。勝手なのですが、彼らに教えてもらいたいと思って実験を繰り返しています。

例えば、ワシが飛べるケージのここにワシいるのです。こういうポールを立てます。この幅を見ているのです。どの幅だったら間通って来るけど、この幅だったらよけてくれる。それをどう活用するかというと、実際の事故現場に持って行って活用していくのです。写真小さくて見えにくいのですが、環状線を通って行くと、道路の横に金属のポールがたくさん並んでいる所があります。あれはオジロワシの事故対策として、こういうポールを立てることで鳥たちにこの上を飛んでもら

うのです。事前に発信機を付けて追跡調査などしていますので、ここは車との接触の多い危険な場所だというのが分かっているのです、そこにポールの幅を実験した上で立てていきます。

感電事故に対しても、危険な場所に近づくのを防ぐために邪魔になるバードチェッカーを付けますが、いろいろな色、形を開発してみて、しかも、電力会社さんと一緒に開発して、これを付けることでこういう事故を二度と起こさないようにしています。

風力発電も増えていますが、プロペラ型ではない新しい形が導入できないのかというのをセンターで実験したりしています。

いろいろな取り組みでは、彼らがいて実験できます・協力できます、というのがあるのです。いろいろな事業がありますけども、ステークホルダーといわれる事業者と対立したいわけではなくて、こういう器具どうでしょうか、こういうシートはどうでしょうか、などどのように解決していくかの話し合いの場、協議の場を作り出してくれるのが、ある意味、鳥たちがいるおかげだなと思っています。

近年は、先ほどご紹介いただいたように太陽光発電、いま釧路湿原の近隣で多数の太陽光発電が開発されていて、5～6年前から急増しているのです。私たちも決して全部ダメだと言っているわけでもないです。太陽光がダメだと言っているわけでもないです。「ここはダメだ」と申し上げているのです。

そのひとつとしては、チュウヒ。全国的に数が少なくなっているチュウヒが餌をとる、もしくは巣を作る場所、チュウヒに限らず今はほぼ絶滅してしまったのではないかと心配されているシマアオジとかオオジシギ、そしてタンチョウなども利用する地域でわざわざ切り開いてまで作らなきゃならないのかという矛盾に多くの市民の方々が賛同の声をあげてくれたことで、今の動きになっていると感じています。

場所によっては全然作ることに対して何の問題もないと思いますし、事前に調査をして影響がない形で進められるのであれば、開発行為が私たちの利用にも経済の発展にもつながるものだと思います。

こちらは海外の事例になるのですが、ロシアで石油天然ガスの開発がすごく盛んに行われています。例えば、オオワシに発信機を付けて追ってみると、彼らにしてみれば国境ないので、冬はサハリンから北海道に渡って来て、夏になると戻って繁殖して、もしくはカムチャツカに行く個体もいるのです。こういう渡りルートが見えてきます。

ひとたび、森を切り開かれてパイプラインが作られていると、繁殖できないオオワシが増えてしまい、ヒナが生まれません。または、油汚染事故が起きると、この界隈のものがオオワシに限らず大打撃をくらってしまう。という意味では、人の経済活動というのは、国を

またいでも影響を及ぼすということから、私が北海道に住む中では、北海道で暮らしてくれる鳥たち、冬を過ごしてくれるワシたちが健全に過ごして、無事に繁殖地に帰れるように過ごしてもらう、その責任があるなど感じるのです。国内だけではなく海外の事例にも注目していく必要があるなど痛感しています。

太陽光、ここまでというのは私たちも予想外ではあるのですけれども、いろんなことが日々起きていますが、やっぱり人が何かを起しているというのは垣間見えてきます。ぜひ皆さんと一緒に何かできないか、もしくは発信していくこともご協力いただければすごく嬉しく思います。ホームページやSNSもやっておりますので、今日の夜、アルピニストの野口健さんがいま釧路に入られております。きょうの夜、うちの代表の齊藤慶輔とのクロストークがありますが、いろんな形で皆さんが告知にご協力いただけると嬉しいですし、何よりも事業でもご利用いただきましたが、釧路湿原野生生物保護センターにはこういうワシたち、野生には帰ることはできないけど活躍してくれるワシたちがいますので、それを見て感じていただいて、お知らせの方に広めていただけたら、それこそ環境教育やいろんなイベント中にご利用いただけると、そこから広がりも見えるかなと思いますので、ぜひご活用ください。

来館者数を増やさないと予算が削られてしまうという実情もありますので、皆さんにご利用いただかねばと痛感しております。

本日は、こういったご紹介いただけるお時間いただきまして、ありがとうございます。ぜひ遠慮なくご相談ください。どうぞよろしくお願いいたします。

会長謝辞

渡邊さん、どうもありがとうございました。今日ご覧になってオジロワシ、オオワシ以外にもチュウヒというものも非常にいま希少種で、私が調べたところ全国で150組ぐらいのつがいしかいないのです。シマフクロウよりむしろ少ないのではないかと思います。チュウヒも希少種で釧路湿原にいるということで、そういった鳥の保護活動とかされている貴重な研究所ですので、お子さん連れや大人の方もぜひぜひ研究所に訪れてみていただければと思います。

私いまバッジ付けているのですが、猛禽類のピンバッジも売っていますので、ぜひ買ってください。私もクラウドファンディングやって、齊藤先生のデザインされたもののかな、水筒とか持っていますので、ぜひ皆さん一人でも多く行っていただければと思います。本日は本当にありがとうございました。

本日のニコニコ献金

- 舟木 博君 徳島から高知まで台風の中、なんとか秋の遍路を終えました。合掌
- 土橋 賢一君 30 度超えの四国から帰ってきて寒さでびっくりです。二度目のお遍路から無事帰ってきました。
- 荒井 剛君 今週末ウィンドヒルスタジアムで開催される中学選抜野球大会に娘が所属する JTB 札幌も参加することになりました。
- 池田 一己君 10 月 5 日地区補助金事業 湿原ツアーに参加させて頂きました。釧路の小学生から高校生まで未来に繋がる事業でした。

今年度累計 99,000 円

